



はじめのいっぽ

令和7年度
7月号

令和7年6月30日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

いきなり夏日和！！梅雨明けを待たずに暑さ本番がやって来ています。

身体の準備が出来ず…体調をくずしてしまう時期です。

十分な水分補給と室温管理をして参ります。

今年は、久しぶりにトウモロコシを植えました。カラスに食べられた経験の中で再チャレンジしました。今年こそ皆で美味しく食べたいと思います。旬の野菜をしっかりと食べてきびしい暑さを乗り越えていきたいと思っています。

水あそびが始まります。体調管理よろしくお願いします。



～ アドラー より ～

失敗した場合にも勇気づけよう

1.失敗は不適切な行動ではありません

よい意図をもって、あるいはすくなくとも悪い意図をもたないで行動したのに、たまたま結果がうまくいかなかったことを〈失敗〉といいます。〈不適切な行動〉は、多かれ少なかれ、親を困らせることを目的にしていますので、そういう点で〈失敗〉とは違ってきます。失敗の結果、親は困るかもしれませんが、子どもは「親を困らせてやろう」という目的で失敗したわけではありません。親は迷惑をかけられたかもしれませんが、そのために感情的になってしまえば、子どもを勇気づける力を失ってしまいます。

2.子どもは失敗を通じて成長する

子どもが失敗したとき、その失敗をとがめたり、批判したり、罰したりしたらどうなるのでしょうか。子どもは、「私には能力がないんだ」と感じて、自分の課題に自分の力でとりくむ勇気をくじかれてしまい、臆病になってしまうかもしれません。あるいは、「親は私の仲間じゃない」と、親に対して不信感を持ってしまうかもしれません。

失敗は成長するためのチャンスなのです。子どもは失敗から学びます。子どもが失敗したときこそ、じゅうぶんに勇気づけてあげましょう。そのためには、まず、子どもの話をじっくりと聴いてみることです。そうして、失敗したために、子どもががっかりしていたり、動揺していたり、自分に腹を立てていたりすることを理解してあげましょう。親は子どもの味方、子どもの仲間なんですから。

3.子どものよい意図や努力をみつけたそう

子どもはよい意図で行動したのに、結果がうまくいかなかったのです。もし子どもを勇気づけようとするならば、結果に注目せずに、よい意図や、努力や、チャレンジする姿勢などに焦点をあてましょう。そうすれば勇気づけは難しくありません。

さらに、失敗によっておこった損害などを、どのようにして回復すればいいか、今後同じ失敗をくり返さないためにはどうすればいいかを、冷静に話し合ひましょう。また、迷惑をかけた人がおれば、あやまるように提案してみるのもいいでしょう。ただし、これは、親子関係が良ければの話で、子どもが親を仲間だと思っていないときに、「どうして後始末をするのよ」とか、「あやまりなさい」と言うと、子どもは怒るかもしれません。